

研修員's VOICE

Vol. 16

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



氏名: Mr. TORA Aminiasi (トラさん)

国名: フィジー共和国

コース名: 島嶼国における水産業多様化と資源の
持続的利用

研修期間: 2018年6月20日 ~ 2018年8月3日
(パラオ研修: 2018年8月4日 ~ 2018年8月14日)

フィジーってどんな国ですか？

南太平洋に浮かぶ大小322の島々(内216が有人島)からなる、面積18,292km²(四国と同程度)、人口約90万人、先住民のフィジー系57%、インド系38%、その他5%の人種で構成される多民族国家です。南太平洋島嶼国のリーダー的存在で、主要産業は観光、農業(砂糖)で、漁業がGDPに占める割合は1.8%です。観光客数は年間約65万人、その半数がオーストラリアからの観光客です。ラグビーは国技と言われるほど盛んで、2016年のリオ五輪7人制ラグビーで優勝し、フィジー初の五輪金メダルに国民が歡喜しました。



©JICA/Kenshiro Imamura

町中でもラグビーをする様子が見られます

今回の研修の目的は？

沖縄における多様な水産資源や資源管理法を学び、フィジーにとって効果的で応用可能な取り組みを実施するため研修に参加しました。沖縄での研修は今回が二度目となり、第二の故郷に戻ってきたような感慨深い気持ちでいっぱいです。今回の研修で訪問した本部町のクロマグロ養殖施設では、一本60kgのマグロを数時間で80本も収穫する様子に圧倒されました。沖縄研修後に実施されるパラオ研修では、現地の漁業局や漁民と協力し、パヤオ(浮き漁礁)を製作し、設置する実習が予定されており、非常に楽しみです。



クロマグロ養殖場での収穫実習

フィジーの水産業の現状と課題は？

フィジーの漁業活動の25%は自給自足的漁業で、漁民の多くは、商業的利益を生み出す漁業ができていません。そのため付加価値のある加工品の製造や養殖の導入等、多様化が求められています。特に養殖は、全漁業のわずか1.16%に過ぎず、重点的に促進する必要があります。沖縄での魚類や海藻類の養殖、種苗生産、地域主体の資源管理などは、特に有益な研修でした。帰国後は、漁業協同組合の組織化、パヤオ漁の導入、地方の魚類集荷場の建設、水揚げデータ収集の向上に取り組む予定です。



マグロのさばき方(左)と加工品作り(右)の実習

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。